

【タイトル】

近隣国での黄熱流行に関する注意喚起

【本文】

在留邦人の皆様

最近、アンゴラやコンゴ民主共和国では主要都市を中心に黄熱（黄熱病）が発生していることから、世界保健機関（WHO）とモザンビーク保健省は、流行国への旅行者は黄熱予防接種を確実に受けて有効な証明書を携帯することを強く勧めています。当国については、患者発生は確認されておらず、非流行国からの入国については予防接種は義務付けられていませんが、流行国を経由して再入国される場合には注意頂き、WHO や検疫所の最新情報を入手し、感染防止に努めて下さい。

（黄熱について）

蚊（主にネッタイシマカ）に刺されることで罹る全身性の感染症です。通常3～6日の潜伏期間の後、発熱・頭痛・筋肉痛・嘔吐をおこします。一部はそのまま回復しますが重症化するといくつもの臓器からの出血や黄疸をおこし致死率の高い病気です。

予防接種で免疫力が得られますが、接種日から10日後に有効となる点に注意が必要です。

2016年05月16日付けWHO「黄熱の発生状況」報告

2015年12月後半に、アンゴラで黄熱の集団発生が発見され、その後、急激な増加がみられた。5月11日現在、アンゴラでは293人の死亡者を含む2,267人の疑い患者が報告され、そのうちの693人が確定診断された。

コンゴ民主共和国（確定患者39人）・ケニア（確定患者2人）・中国（確定患者11人）の3か国では、アンゴラから感染輸出された黄熱患者が報告されており、ナミビアでもアンゴラから感染輸出された黄熱の疑い患者が報告されている。

ウガンダでは、2016年4月に黄熱患者が報告され、5月11日までに確定患者7人が報告された。これらの集団感染はアンゴラとは疫学的に関係していない。

アンゴラなどと国境を接する国々には黄熱ワクチンを接種していない者が多いため、拡大する可能性が高くなっている。

感染症新着情報

<http://www.forth.go.jp/topics/fragment3.html>

黄熱感染の危険国

<http://www.forth.go.jp/useful/yellowfever.html>